

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の高齢者の方が安心され、力を発揮できる場所は、馴染みの場所であり、また今までの体験や経験のある地域との関係は重要であると認識しており、気持ちが癒される場所でもあるので地域との関係作りに努めようとしている。		独自の理念ができる様日々努力し認知症や介護の知識を深めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体及びユニットの会議を定期的に行い、認知症の方々に対するケアの対応を検討している。また、その時・その場で臨時的にも話し合い検討している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族、地域の方々とのふれあいを第一歩として、グループホーム近くの方を運営推進会議の委員に委任し認知症介護の現場を理解していただくと共に、啓発活動に勤め認知症対応型共同生活介護の事業所の役割等を広めるようにしている。		夏祭り等地域の方にお手伝いを貰って関係作りに努め、近くの高齢者がいつも立ち寄り、お茶のみが出来る関係に進めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合い等は努めてはいるが、少ないように思う。また、毎日の買物等で、近隣のスーパーへ出かけ、近隣の方から声をかけて貰う事があるが、現状としては少ない。		いつでも、誰でも立ち寄って、お茶のみが出来るような関係作りができるようにしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区長・民生員・家族の方を運営推進会議の委員に入ってもらい、地域との繋ぎ役になっていただいている。		地域の活動へは、なかなか参加できない状況であるが、行事を活用し、見学のみだけでなく何らかの形で参加出来る様にして、事業所の活動を通じて交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいるとはいえない。		運営推進会議を通し地域の実態の把握に努め、認知症の早期発見への取り組み方を検討していきたい。また、介護相談も地域の掲示板で呼びかけを行い積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価はサービスの質の向上の為に必要不可欠のものと理解している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々の生活場をホール内に掲示し、運営推進会議ではサービスの実際を説明している。会議後は職員にも内容の再確認を行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、機会ある毎状況や大変さや喜び等の意見を述べると共に相談している。また、運営推進会議内でホームの現状を報告しサービスの質の向上に向けての話し合いの場になっています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について積極的に自ら学び、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人に対し支援できるようしている。職員は研修会等学ぶ機会を持ち必要な時活用できるようしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、ネグレクト等の事例を学び、見過ごしは無いかなどの細心の注意を払っています。利用者が話しやすい状態になるよう、気遣い対応するよう、又些細な変化も気付く様努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時及び解約時には必要書類に基づき、十分な説明を行い、また、不安・疑問点を尋ね、利用者や家族等に理解・納得頂けるよう努めています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は利用者の意見・不満・苦情を把握するように努めている。また、介護相談員の定期的な訪問の機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書を送付する際、金銭管理の報告書を同封している。また、定期外の受診や体調の変化があった場合には速やかに連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプランの同意書を頂く時、又は普段の来所時等、積極的に意見や不満がないか伺っている。外部者へは運営推進会議を通して行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員ミーティングに職員の意見、提案を聞き反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう配慮している。利用者の急変時にはそれに対応できるような勤務体制を整えることもある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者とスタッフの馴染みの関係が損なわれぬよう、異動は慎重に行なっている。また、異動時には引継ぎ等を入念に行なうよう努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集に関して、年齢や性別にて排除していない。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の業務内にて指導している。また、研修等にて学んで貰う機会を与えている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への機会を作っている。自発的な講習会へは参加しやすいよう勤務の配慮をしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体である総合福祉施設、又は、同グループホームとのネットワーク作りをしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>コミュニケーションを図り、ストレス解消をするよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修会やミーティング等で各自が向上心を持って、明確な目標を持てるよう行っている。又、職員が意欲的に仕事ができるよう心がけている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人から直接聞ける場合はご本人から、出来ない場合は、ご家族から聞くようにしている。又、毎日利用者と職員が個々に話す機会を作っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前から家族の方にお会いしたり電話連絡をし、困っていること不安なこと等を傾聴している。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の方の話を聞き、必要としている優先順位をつけ対応すると共に、事業所のみでの対応では限界がある、ご本人とご家族の状況に応じ、まずはご本人が本当に必要としているサービスを検討していく。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居を利用して頂き、十分に検討してもらえるように努めている。</p>		
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々の出来る事、支援すれば可能な事、得意な事についてお願いをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と同様に、ご家族との信頼関係の構築も必要不可欠である。来所時や連絡した際に本人の様子を伝えながら家族の協力をお願いしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に関しては時間の制約もなく外泊も出来るような環境を作っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や知人の方の来所を受け入れている。又、本人への電話も取り次いでいる。また、馴染みの人や場所は、その人にとっての地域で、通っていた場所への外出、手紙を出すなどの行為を支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係作りに努め、利用者同士でなじみのある生活を支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても訪問したり電話で様子を伺ったり継続的な関係に努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で気付いた点を申し送りノートに記入、職員間の送りでの報告を通し職員全員が知ることができ、意見することができる。ミーティングでもディスカッションしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族の方にお聞きしながら、以前からの生活について知る機会を作っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペース、希望にて散歩やレクリエーション、ドライブに参加してもらっている。また、その日の心身状態や場面を考慮しながらの支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の様子を記録する中での気付きや利用者・家族等の要望をお聞きし踏まえた上で、利用者の気持を反映した計画、又必要な計画を職員で話し合いアイデアを出しながら作成しています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定期間(短期期間)での見直しは勿論、利用者の入退院時など状況の変化に応じて利用者・家族・職員等で意見を交換し介護計画を見直し実情に応じたケアに繋がる様取り組まれています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月記録作成している支援経過にて、日々の様子・ケア実践状況・気づき・検討項目などあげ、ケアカンファレンス・ミーティング時などに職員で話し合い介護計画に活かしています。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ、同事業者との連携で柔軟な支援を行なえるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に民生員の来苑や散髪、地域の歯科医院からの口腔ケアのボランティアが行われている。又、利用者も参加して定期的な消防訓練・避難訓練を実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により他サービス事業所を利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は現状では十分ではないといえる。		ミーティングの際に地域包括支援センターの機能、権利擁護について、職員全員が十分に理解していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科を基本とした診察については、主治医として地域の診療所の医師が2週間に1度の往診を行っており、その他の科については、ご本人、家族の意向や主治医の判断により、他の病院に受診している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	GHでの生活照会・基本情報の照会を揃えて変化時の電話相談・指示を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的な健康管理は主治医及び看護師、又はGH看護職の指示のもと行なっている。緊急時に関しては24時間主治医への連絡が可能であり、その他のちょっとした事でも電話で連絡し主治医の指示がもらえる。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中も訪問したり、家族と連絡取り合いながら様子を把握し、早期退院に関しては、医師、看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている。</p>		<p>認知症の為に入院時に条件が付いたり、完治までの入院が難しくなったりすることがあるため、そのようなケースが少しでも減らせる体制を考え支援していきたい。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の意向は事前確認及びその時々で確認している。重度化に関しては可能な限り、ご本人とご家族の意向に沿える様に医療の協力を得て努めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現状の体制で「できること・できないこと」をその都度状況に応じて検討し見極めている。また都度主治医へGHの対応について相談し指示をもらっている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入所時には環境の変化による精神的なダメージを軽減する為に頻回の来所、体験入居をお願いするよう努めています。また、退居後は、可能であれば訪問し様子を伺っている。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報に記載された書類は目隠しされた書棚に保管している。また状況に適した言葉かけを心掛けている。個人情報に関しても注意している。</p>		<p>団体生活の場面ではプライバシーを守ることが難しい場合もあるため、今後も意識していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その時の状態や状況をふまえて「できる・できない」の見極めを意識した支援を心掛けている。また、訴えや希望について傾聴し、納得されるまで話を聞くよう努め、自分で選択できるよう働きかけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己選択・自己決定は大切にしている。難しい方に対しては、選択できるような環境を作れるよう心掛けている。		どうしても職員側の都合で行動して頂く場合がある。出来る限り減らしていけるように勤めていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ボランティアの美容師が定期的に来苑され対応している。また、ご家族の方が来苑された時散髪される利用者の方もおります。毛染めの希望があれば、職員で対応している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材に対しては可能な限り代替を用意している。また、毎日3食必ずではないが、可能な限り食材の購入・食事作り・配膳・後片付け・食器洗いを個々に応じた事をお願いしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調管理を行いながら、状況に合わせて提供している。喫煙に関しては、職員の管理下のもとで、周りの方に迷惑にならないところでの喫煙をお願いしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗のある方には早目の声かけをし、個々のトイレサインを把握し支援するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員体制で夜勤体での入浴介助は難しいが、出来る限りご本人の入りたい時に入れるように支援している。		入浴をしたくない方の支援策を検討している。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝・起床の時間は、その時々状況に応じご本人が決められるよう支援している。見当識の理解が難しい場合は、職員からの言葉かけやベッドの誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本的には自分事は自分で行える支援を心がけています。楽しみや気晴らしに関しては外出・行事などのイベント、散歩などを行っている。また、得意なことや趣味が継続できるよう支援している。		今までも利用者への声かけは行っているが、なかなかやる気の出ない方に対する余暇支援を検討してもっと充実させたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理しており、外出時や必要な時には、状態に応じてご本人に渡すようしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	完全には希望にそっての対応はできないが、ちょっとした散歩や外出が出来るような支援を心掛けている。また、家族との外出・外泊や希望時のドライブ・買物が出来るよう対応しています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その季節に合わせドライブに出掛けたり、遠足に行き外で食事したりとしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿っていつでも電話かけられるようしている。また、電話の取次ぎもしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただけるよう椅子やお茶を用意し、一般の家庭を訪問するような感覚をもっていただき、ゆっくりと過してもらおう心掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「介護保険法指定基準」を正しく理解できていない職員もいる。		全ての職員が介護保険法基準を正しく理解できるよう取り組んでいく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室ドアの鍵は使用しておらず、いつでも庭に出られることができる環境を作っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各フロアー職員が利用者利用者の居場所を把握しており、訪室する際は必ず声をかけている。		安全に対する配慮が行き届かない場合があるため、今後検討していきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・爪切りは職員で管理しているが、その時々で個人の能力に応じて貸し出している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>その人にとって危険な行為、注意すべき点については職員間で話し合いました、各対応についてマニュアルを作成し、職員が対応できるようしている。</p>		<p>転倒事故に対しては、今後も更に事故防止に取り組む必要がある。</p>
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変や事故発生時の対応は職員一人ひとり把握し心掛けています。また、救命受講ある時は受講する機会を与えている。</p>		<p>全ての職員が救命受講・訓練できるよう行っていきたい。</p>
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災訓練を消防署・メンテナンス会社立会いの下行い、避難方法を確認している。現在スプリンクラー設置についても指示を仰いでいる。地域の人々の協力体制は整っていない。</p>		<p>地域の人々の協力体制を強化できるよう働きかけていく。</p>
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>その時々一人ひとりに起こり得るリスクについては、家族面談やケアプランの中で説明し理解を頂いている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックを本人に体調を伺いながら行い、状態把握に努めている。また、普段との様子の違いを気付けるように注意して接し、必要時には直ぐに医師へ連絡する。</p>		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の情報は個別にファリングしいつでも確認できる様になっている。変薬時には申し送り・個人記録に記載し徹底している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操など個々にあった適度な運動を行い、水分補給にも努めている。また、便秘気味の方には主治医より服薬指示をもらい対応している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に歯磨きの声かけや介助を行い、個別に応じた支援をしている。また、ボランティアの歯科医院が定期的に来苑し口腔ケアチェック・指導をいただいている。		毎食後の歯磨きが行えるよう支援する。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態・バランスを個々に考え、満足度が得られるように支援している。また、食事量や水分の摂取量を個別でデーターを記入し必要量を確保している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザなどの流行性の感染症に関する予防や対応の情報はその都度申し送りノートに記載して対応している。また、利用者・職員は手洗、うがいを欠かせないように注意している。感染症のマニュアルを作成しており把握している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入し生鮮食料品の買い置きはしないよう努めている。また調理場専用のエプロンを使用し衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関・建物周囲には柵などなく、入口にはベンチを置き気軽に立ち寄れるよう整えています。また、建物の周囲に花を植えたり、家庭的な雰囲気作りに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く自然の光が十分に取り込まれています。窓からは自然の樹木が眺められ四季の移り変わりを目で感じられます。台所作業中には不快な音を立てないよう努めています。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掃除を心掛け季節感のあるインテリアを工夫している。また、利用者の作品も飾っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇などを持ち込んでもらい、自宅と同じように安心できる空間が作れるよう考慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いがでないよう心掛け又、戸外に都度出すよう対応している。換気に関しては利用者の意見や様子を考慮して温度調節を行いました、定期的な換気をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に椅子を置いたり、居室内では個々にあった手摺りを設置し事故防止に努めています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を目立つよう工夫したり、声かけ等により本人の能力を活かした生活が出来るよう支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りを利用者が散歩コースとして安全に歩行できるようコンクリートを引いたり、玄関先にテーブルと椅子を設置し休憩したりお茶を飲んだりできる環境を作っています。また、菜園の手入れや収穫を一緒に行っています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の高齢者の方がその人らしく毎日が過せるよう日々支援しています。